



新発田市立七葉中学校

学校データ
【学級数】
7学級
【児童生徒数】
113人
【地域コーディネーター
の有無】
有

主体となって未来を創る生徒の育成 ～地域を考えた実践を通して～

1 はじめに

当校は今年度、目指す生徒の姿を「主体となって未来を創る生徒」の育成とした。令和元年度から県中教研進路指導(キャリア教育)の指定研究を受け、3年間を見通したキャリア教育を推進している。

新発田市が取り組む「しばたの心継承プロジェクト」との整合性を図り、地域の人的・物的資源を活用した体験活動等を実践している。

次は、各学年の主な取組である。

- 1年生「地域の方との交流学习」
「地域貢献活動」
- 2年生「課題解決型職場体験学習」
- 3年生「市外の職場の方との交流」
「私の未来宣言」

地域コーディネーターが、直接地域とつながり、教員が生徒への事前学習との指導に重点を置くことができ、さらに、地域への情報発信が充実した。

2 取組の実際

(1) 1年生の活動「プロジェクト7」 「地域の方との交流する学習」

1年生は、地域(中学校区)の特色を調べる学習を行った。その後、自治会長、民生委員などと交流学习を実施した。

ア七葉中学校区のよさや課題は何かいどんな地域にしていきたいのか
ウ将来どんな大人を目指すのか



【地域の方との交流活動】

交流により、活動の方向性が具体的になった。

- 自然が豊かでポイ捨てがなく、みんなが住みたいという地域にしたい。
- 地域の歴史を、地域以外の人にも分かるような働きかけをしたい。

「主な地域貢献活動」

- 清掃活動 ○マスク作成
- 調査活動 ○紙芝居にて広報活動



【地域貢献活動の様子】

(2) 2年生の学習

「課題解決型職場体験学習」

1年生の学びを発展させるために、学区内で職場体験学習の実施している。

「課題解決型職場体験学習」とは、事業所の課題に対して、生徒が体験を通してその解決策を考える学習である。

① 事前オリエンテーション

生徒は、体験学習の前に事業所の方から、働く意味のお話や課題をもらい、体験学習の意味を確認した。

<課題(ミッション)の例>

- 若い人に農業の楽しさを広めるにはどうしたらよいか。
- 3Kのイメージを解消するにはどうしたらよいか。

② 職場体験学習



<生徒の主な感想>

- 印象的だったのは、従業員の方の「指摘はされる側も辛いけど、する側も辛い」という言葉です。「私が今指摘することで、あなたたちの次につながる」と、私たちが成長させようとしているのだと分かりました。

③ 職場体験発表会

事業所の方や保護者を招いて、ミッションの回答など気付いたことを発表した。

<生徒の主な発表>

- 直売所のお客さんは高齢者が多い。若い人には、SNSなどによる情報発信と農業体験の機会をつくりたい。

(3) 3年生の活動

「修学旅行における市外の方との交流」

修学旅行は、県内に方面を変更して実施した。新発田市以外で活躍している方から、仕事の生きがいなど、体験を通して教えていただいた。将来の生き方を考える見方が広がった。



【市外の事業所の方との交流の様子】

「未来の私の姿を考える」

2学期に、3年間の活動を振り返り、自己の変容と成長を実感した。自己評価とともに他者評価も行い、自己肯定感を高める学習を行った。生徒は、これからのさらなる成長を目指した「未来宣言」を設定した。

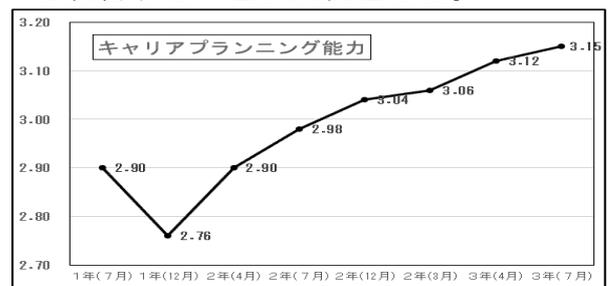


【「未来宣言を設定する学び合いの様子】

III 成果と課題

1年生は、自分たちで、地域の自然や文化を再確認し、できることは何かを考え実践した。地域をよりよくするための役割の自覚が目覚めたと考える。2年生は、今の自分はどのくらい社会に通用するのかを気付くことができた。自分の可能性と課題を認識することができた。3年生は、自分の変容を実感し、目指す姿に向けて成長したい部分を課題として設定することができた。

下図のように生徒は、プランニング能力が非常に伸びたと考えている。このことは、当校の教育計画が3年間を見通したカリキュラムを編成したことによると考える。さらに、生徒の実態に応じて系統性のある計画を実践しながら改善することが大切となる。



【3年間の生徒自己評価推移】